

軍事優先ではなく、いのちとくらし、ケア最優先の社会へ 自ら選択し、社会を大きく変えるチャンスです



衆院解散・総選挙にあたって 【投票2月8日】 全日本民医連・看護理事一同からのアピール

いま私たちは、かつてないほどの苦しみと困難のなかで、患者さん・利用者さんのいのちに必死に向き合っています。長年の政治のあり方によって社会保障費が抑制され、ケアの価値が正当に評価されない構造がつくられてきました。その結果、看護・介護の現場は慢性的な人員不足に陥り、離職の増加、夜勤負担の過重、経営の困難などが重なり、担い手不足が深刻化しています。

そんななか、高市早苗首相によって衆議院は解散、総選挙となりました。

「何のための解散なのか」「誰のための政治なのか」という疑問や不安、憤りの声が広がっています。生活に苦しむ人々の声よりも政治の都合が優先され、国民の「いのちとくらし」が置き去りにされたままです。

看護・介護は、人のいのちに触れ、その人の人生に寄り添い、喜びも悲しみも葛藤も苦しみも、まるごと受け止める仕事です。そこには、人を支え、社会を支え、未来を切り拓く力があります。平和があってこそ、人間の尊厳もいのちも暮らしも守られます。看護・介護は平和の土台の上に成り立つ営みです。

私たちは、問いかけます。

「いのちより軍事費を優先する社会で本当にいいのか」

「ケアを必要とする人が置き去りにされる社会で、平和な未来を描けるのか」

そして、個人の尊厳を守るケアの担い手として、いのちを守ること、ケアを大切にすること、誰も置き去りにしないことを求めます。ケアを支える人を大切にしない社会に未来はありません。いのちとケアを最優先にする政治へと変えていくことこそ、看護の未来を守る唯一の道であり、ケアを支える人が大切にされる社会こそ、患者・利用者のいのちと尊厳を守る平和な社会へとつながります。

衆議院選挙は、比例代表選挙と小選挙区の併用、政党を選択する選挙です。定期総会方針案の学習や職場討議をすすめながら、職員むけのチラシ「VOTE 変えよう政治今度の選挙のポイントは?」の読み合わせ、プラスターでのスタンディング宣伝、ショート動画の活用などで、大いに対話を広げましょう。政党の実績や政策をみんなで学び、私たちの要求を受け止めて実現させる政党を選択しましょう。

私たち看護職には、希望ある未来を選び取る力があります。そして、その力は、一人ひとりの行動から始まります。皆さんの一票が、社会を変え、政治を動かす大きな力になります。

「憲法でアクション! ケアこそ未来を切り拓く。その力は、私たちの一票から」
投票に行きましょう。

2026年1月27日
全日本民医連 第46期看護理事一同

